

みんなの夢の創造と実現のために……

下松市観光協会  
会報

# 星のゆめ

VOL. 4

編集・発行/下松市観光協会

発行者/近間 幸雄

Phone 0833-45-1800 (内)428



4月

切戸川は

桜のはなびら

もようの

川になります

詩・イラスト/藤田直美



ある著名な登山家の話の中に自然界に身をおいていればいる程、五感がとぎすまされてくるという言葉がありました。実際未開地に住む人々は今もって伝統的な手法で猟をしています。

一方、大都会ではあらゆる騒音や、あふれる情報の中で小さな音や事象がかき消される事もしばしばです。我が町下松ではそれほどではないにしても、我々は毎日機械文明の中に身をまかせ、テレビ、ラジオから流れる情報や、各種雑誌からの情報をそのままに受けとり、おまけに産直ばかりで各地の名産品でさえ居ながら手に入る事ができます。

機械的な情報は予備知識としてそれはそれで必要な事ですが、残すべき自然にはできるだけ手を加えず、少し足をのばせば五感が充分にとぎすまされ、精神的にも肉体的にもリフレッシュできる場所を持つ事が、これから益々都市の財産としての価値が高まってくるのではないのでしょうか。





# 輝き広がれ降松星太鼓!

## 株式会社太鼓センター ひがしむねのり

十一月二日の55周年式典の初披露、わずか半年の練習でよくぞここまで!と客席で安堵と感動の思いにひたる事ができました。鼓員の皆さんに改めて、おめでとくと、ありがとこの言葉贈ります。

今後どのように下松市に根づいていくか、すべて星太鼓のメンバーの肩にかかっている。半年とはいえ、私が下松を訪れたのは八回だけですが、とても充実した練習とチームづくりができたように思い、新しく創った伝説が、着実に広がっていくであろうと確信します。

そして、星太鼓リーダーの桑田さん。自分が覚える苦勞を、自宅で黙々と努力したのみでなく、それ以上に鼓員をまとめる事に腐心して、年輩のメンバーと重要な役割を果たしてくれました。プラスバンドの盛んな所だけあって、若い女性たちは、音譜に強く、音楽的リードをしつかり引き

受けてくれました。皆さんの意気込みと、私の想いが練習の度におつかり、高まって、あの初演を見事に演じられたのだと思います。「太鼓チームづくりは人づくり」とかねがね思ってきましたが、一つの典型的なチーム結成になったと思います。和太鼓の響きは、赤ちゃんからお年寄りまで、すべての人々の心臓に響きます。愛すべき、降松星太鼓のメンバーとの再会を楽しみに。

# 『下松と吹奏楽』

## 中馬好行

昭和51年に卒業後末武中学校に音楽教員として赴任。以後楽器経験など皆目ないままに生徒たちと吹奏楽に携わってきた18年間であります。

しかしながら問題はこれからだとも言えるのです。ひとつは吹奏楽の社会的地位という側面。オーケストラはオーケストラというだけで認められ、合唱は合唱だけで認められる。それはそれぞれが独自の音楽を確立してきたからです。しかしながら吹奏楽は吹奏楽としての固有の音楽を未だ確立していません。

もうひとつは、地域に根ざした吹奏楽という側面。「吹奏楽のまちくだまつ」と呼ばれながら地域と一体となった活動というとまだまだという気がします。その大きな弊害がコンクール活動であり、しかしながらまさにコンクールこそがここまで私達の活動を市民の方々に認めていただいた大きなアピールポイントでもあったという皮肉な面もあるのですが、年一回一堂に会

する「吹奏楽のつどい」。「桜桜フェスタ」や「米泉湖祭」などへの参加。確かに地域行事には参加しているのですが、それ以上に今求められているのは、音楽にあふれた町づくりではないのでしょうか。市役所やスタジアムのエンターテインメント、笠戸島や米泉湖での野外演奏など、市民生活と共にある吹奏楽、「いつでも、どこでも、だれとでも」これが文化であり、本当に地域と密着した活動でありそれが自分たちのアイデンティティーであるとも思っています。いずれにしても21世紀の下松を支えるささやかな一柱となるべく、音楽活動を続けて参ります。

「吹奏楽のまちくだまつ」といわれるまでになりました。そして昨年ついに「下松吹奏楽協会」(近間幸雄会長)設立のはこびとなりました。18年前を今振り返るとき、隔世の感があります。

ズだってポップスだって全部

「吹奏楽のつどい」。「桜

ります。



ひらめのつばやき

☆わしや、笠戸のひらめいの。今、世間じゃ、いじめの問題で大変ですいの。又々、中学生が「いじめ」で自殺しまししたいの。そりやノわしら「ひらめ」の世界でもいじめはありますいの。「おまえら、笠戸もんは天然もんと違うけ、あつちいっちよれノ」ちゅうて、そりや、いじめられましたいの。同じ仲間うちでも、弱いもん見つけてしつぽにかみつく奴もいますいの。でも、育ててくれた人達の情熱や、料理してくれた人達の愛情で、わしらあ「笠戸ひらめ」してもらいましたいの。人間社会でもの、育てる人達の情熱や指導してくれる人達の愛情ですこしは「いじめ」も無くなるんと違いますがいの。情熱と愛情でよろしゅうたのんますいの。ところでの、今度は「笠戸ぶく」ですいの。わしらあ、仲間が増えてうれしいですいの。しつかり皆んなで可愛いがつて新しい名物にして欲しいもんですいの。よろしゅうたのみますいの。



# OH OH 桜桜フェスタ

4/2決定

点燈式 3/25(土)

## スポンサー募集のご案内

### 切戸川沿い「ぼんぼり」設置

市観光協会では、今まで地元の柳自治会や切戸川を愛する会の方々が中心となって取り組んでおられました、桜の花見時期における「ぼんぼり」の設置を引き継ぎ運営していくことといたしました。

平成7年の「ぼんぼり」設置に向けて諸準備を進めてきましたが、皆様にはぜひスポンサーとしてご協力いただきたいと存じますので、ご案内致します。

#### 記

- 設置期間  
平成7年3月25日(土) から4月16日(日)まで
- 設置場所  
柳橋を中心とする切戸川沿い
- スポンサー名揭示方法  
ぼんぼり1個につき3面使用
- スポンサー料  
1個につき6,000円

(期間中)

○ 申し込み  
事務局にご連絡いただきますしたら、後日お伺い致します。

☆連絡先 市役所商工観光課  
内 観光協会事務局

☎1800 内線428



昨年、桜桜フェスタは、雨の中、市民の皆様がこられて、楽しみにされているんだなと思つた。歩行者天国も諸事情で中止。何か体育館周辺とグリーンプラザを連動できる企画がないか思案していたところ「下工弁慶号」を桜の咲いたトンネルを走らせたなら素敵

な事だなぁと思つた。皆に相談してGoノが出て色々なノウハウを下松工業会の皆様にお聞きし、どの位でこの企画が出来るか電器屋のY氏、ギフトのY氏、菓屋のY氏などと協議し進めていった。市の55周年の冠も頂戴し、形がだんだん整つて来た。ちよつとこ

だわつてみようとい氏の発案で駅名も「さくら駅」と名付け、テレホンカード、記念乗車券を作成し、セツト販売した。テレホンカードも工業会のH氏の協力によりスタッフと話し合つて素晴らしい出来

映えて切戸川夜さくらもチョット入れて感じよく仕上がつた。切符も昔の硬券紙を作成し、ザ・モール周南、マミー等販売し、観光協会の皆様にもご協力頂いた。

前夜祭もチョット寒い中、市民の皆様がお集まりになつて、ぜんざい・お酒で体をあためたため色々な演奏に聞き入つ

ておられた。

メインフェスタは、前日、TV、TYS「サタスバ」の生中継を企画、出発式を挙行し市長さんにも参加して頂き又、下松駅長さんにも制服等おかりして一番切符の入録をしていただいた。TVの放送も柳子供会、BS5団、GSのご協力によって楽しくまたセニョール小林と長岡外史に扮したO氏のかげ合い、市の総務課の方々の楽しい花見風景など面白く企画してもらつた。

当日は、前日のTV放送が功を奏して、青空の天気の下多数の市民の皆様に来場していただいた。各団体のモギ店の方も昼すぎには、売り切れの店もあり、盛況であった。

「弁慶号」の企画ではボランティアで下松工業会の皆様にも手伝つて頂き運転手の方も喜んでおられた。

一つのイベントでまた「和」が広がりをみせた。「歩行者天国」の復活を願いつつ、色々お世話頂いた各方面の皆様「顔」をうかべながらパンを置く。「感謝・有難う」そして「また夜桜をながめて一献かたむけましょー」



### 観光協会・特産品振興奨励賞

#### 平成6年度は

## 笠戸島ハーブソーセージに決まる

当下松市観光協会がふるさとの特産品開発者に贈る、本年度特産品振興奨励賞（賞金一〇万円）を財団法人下松市笠戸島開発センター（河村憐次理事長）が発売した「笠戸島ハーブソーセージ」に授与した。

目標となっている。

ちなみに、この賞は昭和六十一年に「松の実もなかシリーズ」「妙見しぐれ」「梅の華」の三銘菓、六十二年は「笠戸ひらめ」郷土料理が受賞、以来実に六年めの待望の特産品誕生となった。これを機にせめて一年に一〜二点は開発される勢いが期待される。

この制度は下松市のC.I（Community Identity）地域社会の個性）効果を高め、地域を愛し意欲と活力を持った人々を支援することが目的で制定された。経済波及効果を高めることもさることながら、下松のイメージを高めることが

今回の笠戸島ハーブソーセージは財団法人が経営している笠戸島家族旅行村・大城と、地元ハム・ソーセージメーカー（南朝日屋（安田孝臣社長）とが共同開発した。朝日屋は精

肉店を早くから脱皮し、ドイツ人マイスターを招聘して本場ハム・ソーセージ直伝製法を学び、ドイツ製機械導入後次々に商品を製造してきた。昨年十月オランダ・ユトレヒトで開催された「第二七回国際食肉加工見本市」において、5部門出品し全て銀賞を獲得。その高い技術力が評価された。笠戸島ハーブソーセージは笠戸島のふくよかな土とあたたかい潮風に育かれたセージ、ローズマリー、マジョラムなど5種類のハーブやスパイスを良質で新鮮な肉の中に閉じこめ、可能な限り添加物を押え、ヘルシーさの中に芳醇な香りと旨さを訴求している。マイルドな味と歯ざわりと広がるハーブの香りが人気を呼んでいる。食べ方も生食、サラダ、サンドイッチ、おでんや料理の具、こんがり焼いてワインやビールのつまみなど多様。六月十二日開催された旅行村ハーブまつりで発売されてから大城・旅行村、西友味街道、西武ギフト等で売れ行きも好調だ。

また十一月には県のふるさとの特産品振興奨励賞も受賞した。下松の新産品として育んでいただくよう期待する。

## イカダレースを振り返って

有田英作

今年、イベントとして、色々な勉強をさせて頂いた。弁慶号に続いて、下松の夏の名物行事マリナイカダレースもやらせて頂き、皆様のお陰で楽しく出来ました。

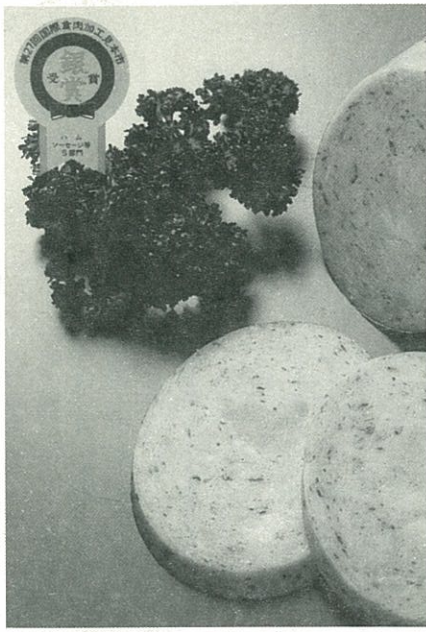
今年、TVを使いYAB「五時からワイド」の番組レポーターの方にレースに出場してもらい、体験レポートをしてもらった。10分程の番組だが各チームの楽しい様子、笠戸旅行村からのアングルで笠戸島の自然すばらしい景観がTVを通じて茶の間の皆様

に届いた事だろう。又、県の事業の「はあといん事業」も加えて「はあといんレディーズ」を結成し、Tシャツの販売、イカダレース交流会を開催し、独身男女の交流の機会を広げる企画もやらせて頂いた。結構我々商工会議所青年部のスタッフも華やいだ雰囲気の中で大会を進める事が出来た。

レースは、ディフェンディングチャンピオンの「海にいるあなた」が優勝。地元チームの新笠戸ドックが3位入賞。中電チームに続く久々の入賞。

来年は、地元チームに頑張って頂いて是非とも優勝チームを地元から出てほしいなど思っている。賞金もレディーズ部門の3位まで賞金にかえ、各飛び賞も各方面のご協力により、笠戸ひらめ、ハーブソーセージ等の下松の名物も入れ市制55周年記念で五五〇〇円賞金をご愛嬌で55位に出したりした。下関から参加のチームに「ひらめ」が当り喜んで帰っていった。

色々な人に助けられ、色々な場面に逢い、楽しく終らせてもらった。心から「有難うございます」を皆様に…。来年も開催されるこの大会を皆様もあたたかく見守って育てていきましょう。あなたも参加されたら……。



▲ヨイ…ドン!!





GO! GO! 緑の中でメモリアルソング  
**「米泉湖音楽フェスティバル94」**  
 今年も大成功!!

米泉湖音楽祭実行委員長 中村隆征

九月二十三日は今年も米泉湖周辺は大勢の人々で大賑わいでした。陸上自衛隊山口駐屯地音楽隊のパレードでスタートして、下松高校吹奏楽部を始め、華陵高校、末武中学校、下松市吹奏楽団、吹奏楽のまち下松にふさわしい素晴らしい吹奏楽の演奏が続き、東ソーニューサウンドも花をそえていただきました。ダンシングチームGFワンのショーも大いに盛り上がりを見せました。そして今年のメイン行事は、

市制施行五十五周年記念という事で、下松市の生誕をお祝いし、九月二十三日生まれの方々二十九名をお招きして音楽パースデーの開催、昨年はロイヤルウェディングの年という事で本物の前結婚式を行い、大変な反響を呼んだだけに、メイン行事の企画には、かなりのプレッシャーがあったけれど、スタッフ一同の見事なチームワークで、今年の音楽パースデーも大成功であったと思う。特に光市の梅田病院さんの御協力を得て、当日十三時二十六分に生まれたばかりの赤ちゃんの「オギャー」という産声が会場に流れた時は、感動でした。誕生日を迎えられた二十九名プラス一名(生まれたばかりの赤ちゃん)の方々には記念植樹もしてもらいました。

米泉湖プロムナードの除幕式も、今年から俳句だけでなく短歌の応募もつり、五十五の文学碑の除幕を盛大に挙

行し、これで昨年の五十五碑をくわえ合計一一〇の文学碑がプロムナードとして出来上がった訳です。その他魚つり大会、大声大会、ちびっ子遊々広場など様々な行事が大変な人だかりであり、各種バザーは、早々の内に完売状態の様でし

降松太鼓

井上美来

降松星太鼓を結成して半年、長いようで短い期間でした。初舞台は皆の気合いが一つになったいい出来で、いままでも味わったことのない感動と興奮を感じました。

た。毎年の事ながら、米川、花岡地域の多勢のボランティアの皆様方の御苦勞には、ただひたすら感謝申し上げます。そして皆様方の地域を思うお気持ちにはいつも事ながら頭が下がる思いです。御協力ありがとうございました。

思いかえせば4月、私は太鼓に特に興味もなくさそわれるままメンバーになっていました。当然他のメンバーも皆バチも持ったこともなく地道な基礎タイや練習が続いた7月までは太鼓をする、ということに消極的だったように思います。しかし、太鼓が納品され、オリジナル曲も一部出来あがってくると、とたんに積極的になり、メンバー同士もどんどん仲良くなっていき

ました。9月、曲もほとんど完成し皆本番を意識するよう

になりました。しかし、思うように曲は覚えられない、リズムは合わない、特にクライマックスでの自称「三四のリズム」はテンポも早くついていけなくてひがし先生の要望どおりにいかない部分は本当にたくさんありました。が、皆一丸となって週3回に練習を増やし、とにかくがんばりました。そしてこの練習の結果が11月2日の舞台でした。お客様からは心配していた拍手をいただき、曲の終わった後には大きな拍手。その上アンコールのコールまで……。実はアンコールはないよね、といったつ、密かに「太鼓はやし」という曲を練習していたのです。



気分です。私達の初演の幕は降りました。

今まで特に個人で、チームで何かをしたという経験のなかった私ですが、本当に太鼓との出会いがあつてよかった、降松星太鼓を通じて多くの方と知り合えてよかったと感じています。

これからも太鼓の腕をもっと向上させたいし、色々な曲にチャレンジしていきたいと思っています。そして下松の皆様にもっと太鼓のことを知ってもらうために、ひがし先生ひきいる「祭衆」とのジョイントもやってみたいことの一つです。

これからはがんばっていきます。降松星太鼓をよろしくお願ひします。



KRYANA  
江口雄二の  
**おびきまじ**  
Vol.4

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

### スタンダード まほろば

今年こそは景気も浮揚して「星のゆめ」読者の皆様が良いことがありますようにと念じつつ、僕の足はいつの間にか相生町の「まほろば」へ。のれんをくぐると、大和なでしこ美人のママ洋子さんが優しく迎えてくれた。僕の取材

「あっ、あいつ坊主のクセにシーマに乗っちゃるで」「テレビに出ると、エエ、ギャラになるらしいのう！」  
もつ七年前に買ったシーマも、少々色あせて来た今日今頃だが、昨日の様にあの声が聞こえて来る。

### 『夢の出演料』

三池孝尚のテレビあれこれ

日本テレビのスタジオを出て銀座のニッサンギャラリーに立寄ったのが縁で、話題の

てみると、ギャラがいくらか決まっていなかったのである。坊主と云う相場の無い世界に生きて来た非常識の塊の様

を心待ちにしていたくれたとのこと。(涙が出るほど嬉しくて、すぐ酔いそう...)

店名の「まほろば」とは、いにしえの時代より使われており「よい所」という意味で古文好きの娘さんの命名。

「まほろば」で一番驚いたことは、何とお客さんのカラオケカルテがあること。Aさんは「〇〇ブルース」、Bさんは「◇◇慕情」などと、曲番号と共に、便箋に毛筆で細かくびつしりと記入されている。それがまた超達筆で、思わず唖つてしまうほど。

ママは「良いお客様に恵まれて十五年」と言うけれど、いやいや本当はママがお客様を大事にしているんだよね。道理で客筋もよく千客万来の

名車を手でできたのは、テレビの出演料を当て込んでの話であった。

ところが、帰ってよく聞いて

三池孝尚のテレビあれこれ

はず。ひと月に何回でも足を運びたい、「まほろば」です。



▶今夜もカンパイ!!

な男、大した買物ではあった。今も、シーマに乗っておれるとは有難い。

ギャラの多少は別として、

全て、源泉税が引いてあるので、誰れにも、気がねなく使えるのがうれしい。

### 三池孝尚

ただし、出演回数が減ってくる、日一日と淋しくなってくる。あまり当てにできない夢の様なお金なのである。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆  
**レストプラザ  
ウイング**

今度は同じ相生町の「ウイング」を訪問。いやあこちらは賑やかそのもの。年齢は不詳、「私は魔女よ」と自ら宣言する市毛良枝似のよしこママ、チーママの幸ちゃん、それに、若さいっぱいの綾ちゃん、明ちゃんが四十席近くある広い店内を駆け巡り、まさに熱気ムンムン。

「ウイング」の一番の見物は、幸・綾・明ちゃん3人娘の歌謡ショー。キャンディー

ズメドレーなどは、年甲斐もなくおもわず興奮、ムードは否応無しに最高潮にさせられてしまうのです。

この様にいつも明るく騒げて、お客様に喜んでもらえるお店は貴重な存在。さらに明朗会計、カラオケの音響パッチシとくれば言うことなし。

ママ同志の仲良し旅行が好きで、ゴルフは七番Iしか使わず、「飲むと眠くなるの」と言う純情よしこママファンは、ざっと数えただけでも三ヶタに達するとか…。今夜も気持ち良く飲み、「人氣のあるお店は、それなりに努力しているんだなあ」と実感。今年もガンバリましょうね!

### 編集後記

今回も沢山の方々には快く原稿を書いていただき、ようやく第4号の会報を発行することができました。紙面をかりまして厚くお礼申し上げます。今、一番トレンドイヤーな事をどのようなかたちで会員の皆様にお知らせするか、毎回頭を悩ますことですが、他市の会報等も参考にしながら、楽しい会報となるよう頑張ります。

(A)